

3人の物語

07.2026 例会 金古 尚

クララ、ロベルト・シューマン、ブラームスをめぐって

クララ・ヨゼフィーネ・シューマン (1819- 1896) はピアノ教師の次女として生まれました・すでに 9 歳の時にはライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団演奏会でモーツァルトを弾いています。その後も天才少女として有名なピアニストに成長していきます。演奏を聴いたショパンは「自分の練習曲集を弾ける唯一のドイツ人女性」といい、その才能をリストに伝えたと言われます。

クララ・シューマン：3つのロマンス Op.11 (13'59)

岩井美子 NAXOS

ロベルト・シューマン (1810-1856) はツヴィカウで書籍販売、出版を営む家に生まれます。音楽にも興味と才能を見せる一方、文学にも大変な興味を示し、ジャン・パウルに傾倒、ホメロスやプラトン、シェークスピアなどにも接していました。知人の音楽会でクララと出会います。シューマンはクララの父、ヴィークにピアノを師事、娘のクララとも親しくなっています。初めは兄弟姉妹のような関係だった 2 人にやがて愛が芽生えてきます。父のヴィークは 2 人の結婚に猛反対し一度はクララはシューマンのことを諦めますが、シューマンとの結婚を承諾します。シューマンはヴィークの反対に対し、訴訟手続きをして裁判を起こします。

シューマン：幻想小曲集より 「夕べに」 2'56 小山実稚恵 (CBS-SONY)

シューマン：フモレスケ より infach und zart—Intermezzo 4'44 小林五月(ALM)

シューマンが結婚をめぐって裁判を行っていた時はちょうど彼にとってピアノの年にあたります。この頃彼のピアノ作品が遺されています。幻想小曲集の第1曲「夕べに」は静かに夕暮れが迫る薄明かりの時を思わせる美しい曲。フモレスケ (ユーモレスク) は単なるユーモアではなくドイツ的な感情を持つ。「単純に柔和に」と題されたこの曲は第3曲にあたります。

クララの母の支援もあり、2 人は結婚することができました。父になったシューマンは中期、後期の活動に入っていくことになります。

1853 年シューマンは当時 20 歳のブラームスに会います。シューマンはブラームスの天才と将来を予言します。この頃からシューマンに精神の不調が見られるようになります。

シューマン：ヴァイオリン・ソナタ第2番 第2楽章 4'36

ギドン・クレーメル マルタ・アルゲリッチ DG

1851 年の作品。詩的な抒情と情熱的な感情を持つ作品。柔らかいヴァイオリンの明るい

主題で始まる。

シューマンの精神は 1854 年から悪化していきます。幻聴、体の震えなどに悩まされます。2 月 27 日変奏曲の楽譜を清書し、家を出た彼はそのままライン川に身を投げます。漁師に助けられたシューマンはそのまま精神病院に収容され 2 年余りの静かな療養生活の末、亡くなります。46 歳でした。

残されたクララを助けたのが、ブラームスでした。ブラームスのクララへの想いは募っていくことになります。

ブラームス：：ピアノ協奏曲第 1 番二短調 第 2 楽章 13'46

アルフレド・ブレンデル クラウディオ・アバド ベルリン・フィルハーモニー PHI

ブラームスがクララに書き送った手紙に「あなたの柔和なポートレートを書いてみました。それはアダージョになるはずです」とあり、この部分と言われています。クララを慰め、彼女に憧れる感情がこの曲には踏められていると言われています。

ブラームスは姉とクララと彼女の 2 人の子供たちとスイス旅行にいきます。この頃からブラームスの感情はクララへの同情になっていったと言われています。

クララとはシューマンの楽譜の出版をめぐる意見の対立などありましたが、それも乗り越えて静かに続いていきます。

やがてクララの死が訪れます。クララはシューマンの隣で眠っています。

この時ブラームスは彼女の死への悲しみと自らの創作力の衰えを感じていました。

ブラームス：クラリネット・ソナタ第 2 番 Op120-2 第 1 楽章 7'03

カール・ライスター イェルク・デムス DG

ブラームス晩年の作品にあたります。重厚さよりむしろ単純な親しみやすい作風を持っています。愛らしい主題で始まりやがて第 2 主題に受け継がれていきます。

ブラームスはクララの死の翌年、この世を去りました。64 歳でした。

